

【代表的な研究テーマ】

- **自閉傾向を持つ方のコミュニケーションの方法を理解する研究**
- **個人写真を使った記憶の回想支援**

Keyword：コミュニケーション、自閉傾向、記憶回想支援、人とコンピュータの相互作用

研究の概要

1. 自閉傾向を持つ方のコミュニケーション方法を理解する研究

自閉傾向の方は、一般にコミュニケーションが不得手といわれています。ですが、私たちが開発しているコミュニケーションゲームのなかで、彼らは巧みに他者と意思疎通をおこないます。このような知見をもとに、自閉傾向をもつ方を理解しつつ、コミュニケーションの支援に関する研究を進めています。



コミュニケーションゲーム

2. 個人写真を使った記憶の回想支援

個人が撮りためた写真を情報技術によって統合・処理することで、感情をともなう記憶を呼び起こす研究をおこなっています。精神的に落ち込んでいる方に対して、生きることへのモチベーションを向上させることを狙っています。



記憶の回想支援システム

アピールポイント

・研究している分野

基本的には大学の実験室のなかで、多様な特性をもつ**人間のコミュニケーションや考え方の特徴**を調べつつ、人間を幸せにするツールの開発を目指しています。現場での活動経験が豊富というわけではないですが、支援学校や介護場面を想定し、研究成果の現場への実装を目指しています。

・研究アプローチ

認知モデリングという「**人間の模型をコンピュータで作るアプローチ**」を用いています。個人の思考やコミュニケーションの傾向をコンピュータによって表現し、その表現をもちいた支援を行います。情報技術を活用した人間に対する深い理解が、今後の社会での様々な問題の解決につながっていくと考えています。



森田 純哉

学術院融合・グローバル領域
情報学担当
准教授

■ 相談に応じられる関連分野

- ・ 情報技術をもちいた人間の心理や認知の支援
(自閉傾向、記憶回想、認知機能の低下、人とコンピュータの相互作用)

■ その他の社会連携活動

名古屋大学招聘教員: 大学における研究・開発成果の社会実装を目指すプロジェクト(名古屋大学センターオブイノベーション)に2014年より現在まで参画している。ケアハウスでの実証実験、一般成人22名を対象とした各人半月におよぶ記憶回想実験、一般高齢者を対象とした1ヶ月におよぶ心身機能トレーニング実験など、現場における大規模な実証実験を実施してきた。